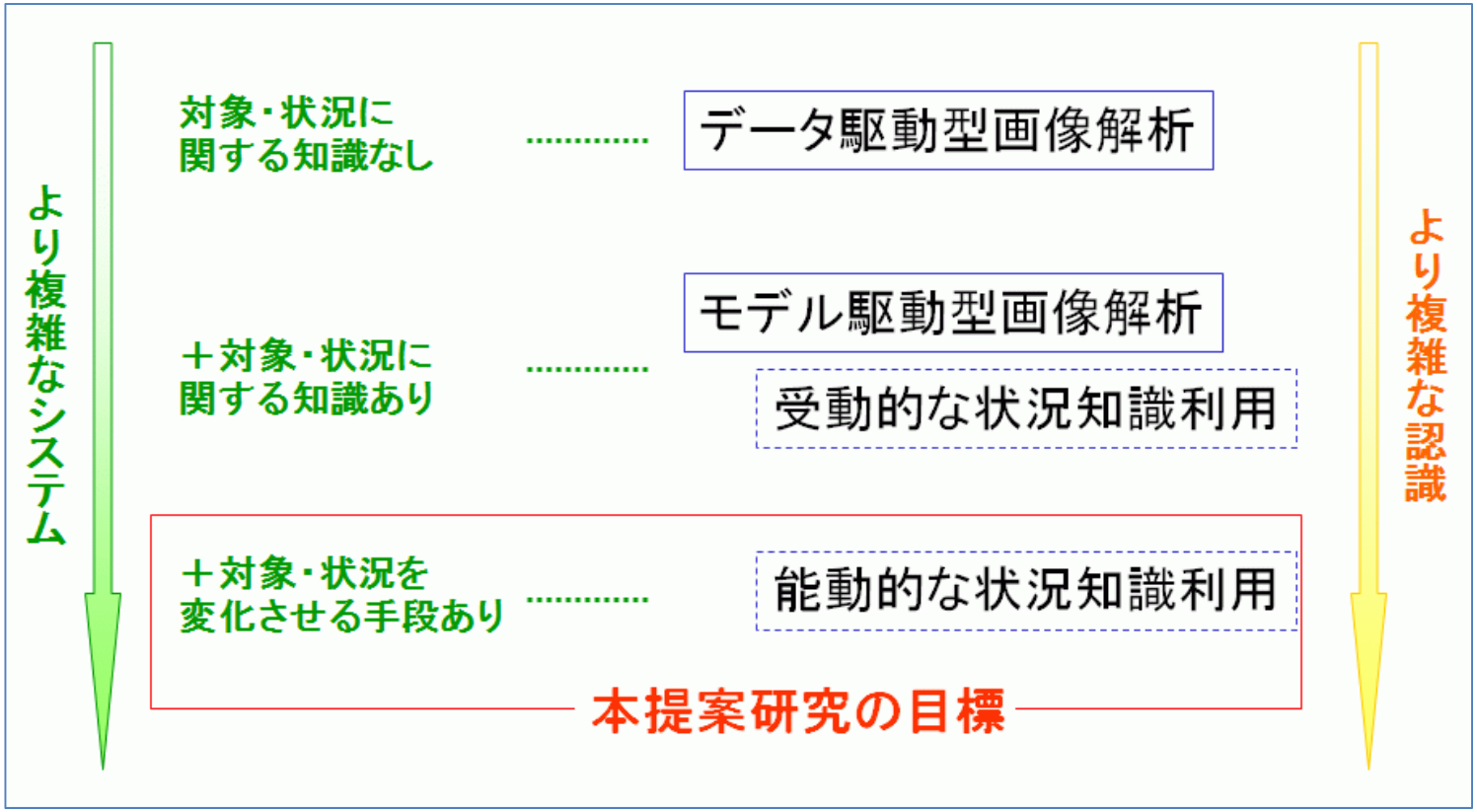
視覚認識研究としての学術的意義

人間に代表される高度な知的自律システムは、受動的に得られる入力情報からの認識が難しい場合、**能動的に対象や環境に働きかけ、必要な情報を自ら獲得し、目的とする認識を成し遂げる**能力を有しています。しかし、これまでは画像認識研究が身体部と独立して行われることが多かったため、下記図中段の、受動的な状況知識に基づく画像解析技術までが限界でした。本研究では、この戦略を一歩進め、**能動的に作り出した状況の知識に基づくモデル駆動型画像解析技術**の実現を目指します。